

平成 17 年 10 月 30 日

第 30 号

# 会

# 報

日本工業技術教育学会

日本工業教育経営研究会

## 知識を知恵に換える工業教育－教育の不易流行を見据えて－

日本工業教育経営研究会 東海支部長  
愛知県立豊橋工業高等学校長

鈴木恒男

ものづくり日本を支えてきた団塊世代の大量退職がまもなく始まる。俗に言われる 2007 年問題である。少子高齢化による労働人口の減少、国際競争力の激化、若者の科学技術への関心の低下や勤労意識の変化が、技能継承が欠かせない製造業を中心とした産業界で、喫緊の課題となっている。

経験に裏付けられた高度の「技」を持つ団塊世代の大量退職がもたらす大きな問題は、労働力の不足ではなく、熟練労働者が持っているノウハウが失われてしまうことである。

天然資源に乏しい我が国の経済的発展の原動力となり、今日の科学技術立国日本を築きあげた過程を辿るまでもなく、高度熟練技能・技術者の大量退職がもたらす影響の大きさは自明の理である。

同様に、産業教育の一役を担い、社会の要請に応じながら有用な人材を輩出してきた工業高校の役割は、大いに評価されるべきことと思う。時代の趨勢を見極めつつ、工業教育における「不易流行」を率先垂範された先輩諸氏の先見の明に改めて敬意を表するものである。

何れにせよ、高学歴化・普通科志向が強まる中で、我々は工業教育に誇りと自信と夢を持って、21 世紀の主役である生徒の指導に当たるべきであろう。

団塊世代の補充は、その業務に精通した人がいれば問題は解決する。しかし、業務ごとに独自のノウハウがあるので、それらを持った人材は非常に稀だ

と考えられ、中でも、高度な技能・技術を持った人材の補充は、困難を極めることが容易に予測される。

さらに、最近の若者は、4K(きつい・危険・汚い・臭い)の職場を敬遠する傾向や、加えて、職業観・勤労観の変化から「7・5・3 離職」(各事業所に就職し

た中卒者の約 7 割、高卒者の約 5 割、大卒者の約 3 割が在職 3 年以内で辞めてしまう状況を示す言葉)と言われる早期離職が増加しつつある。フリーター志望やニートの若者も増加しており、総務省は「34 歳以下のニートは平成 16 年は、64 万余人に急増している。派遣社員や契約社員への切り替えを進めた結果、新規高卒者の求人か減少したことも影響したものと思われる。」と発表している。

我々には、工業教育に直接携わる者として、生徒たちに、望ましい職業観・勤労観を育成することと教育の不易流行を見据えて、知識を知恵に換える「生きる力」の育成が求められている。

第 15 回工業教育全国大会の研究発表資料には、実践に基づいた貴重な研究・報告が満載されている。宝の山を見逃すことはない。

